

2021/12/18

(オマケの英語教室 Mottainai) 書庫版



お金がないのもあるのですが、亡くなったお袋が兎に角捨てるのがきらいで
何かに付け

「勿体ない、勿体ない」

と言ってスーパーで買い物をした時のビニールのレジ袋なんかもきれいに畳んで締まっておくような人間だったので、その血を引き継いだのか自分も何でも再利用するクセがついたようです。

自分はかなり食いしん坊なので食を例にご説明いたしますと、
例えばオイルサーディン(燻製味)の残り油汁は刻み唐辛子と一緒にスパゲティー・ペペロンチーノ燻製風味にして炒めるのに使ったり「どん兵衛」の残りだし汁は、砂糖と醤油を加えて目玉焼きの甘辛に付けに再利用したりしております。

ところが我々日本人が日常生活で頻繁に使っている、この

「勿体ない」

という言葉の対等訳が世界各国語の中で殆どないと言うことを耳にして

「えう？嘘やろう」

と驚いてしまいました。

因みに「勿体ない」は英語圏では英訳しようがないので「mottainai」と表すのだそうです。
しかしそれでは日本文化に詳しい外国人さんには分かりますが、疎い外国人さんには何のことだか分かりそうもないので、ならばどう訳したらいいのか？を自分なりに考えてみました。

それで思いついたのが以下となります。

A little bit feeling the sense from psychological pressure for wasting. A feeling for wasting means that at the time when leaving them away, nevertheless we can reuse more, we Japanese naturally feel one.

(無駄に対する心理的圧力から生じるちょっとした感覚。未だ使える物を捨てるときに非本人が感じる心理)

ちょっと長つたらしいですが、こんな感じでしょうか。

処で何故日本人はそういった感覚を持つのか？

たとえば、是は自分の推論になりますが「物にはみな命が宿っている。それを無駄にするのは罪深い事である」という意識がどこかに働いているような気がしております。

余談)

繰り返しになりますが、英会話での的確適語の一語に英訳する必要はさらさらないのだと思っております。

多少長くなっても意味や意思が伝わればいいのですから。

的確適語の一語訳に囚われて何も会話が生まれない事の方が余程の、それこそ無駄(big waste)=大損 (big loss) ですから。